

## 平成29年度 美術科 授業改善推進プラン

### ①現状・観点別分析

#### 生徒による授業評価の分析

- ・めあてや流れを把握して学習できている生徒の割合は1年生が96%、2年生が94%、3年生が92%となった。意欲や関心が高まっていると感じている生徒の割合は1年生が83%、2年生が91%、3年生が80%となった。しかし、「自分の考えを書いたり発表したりすることができる」「振り返りをさせてくれている」という項目については全学年80%未満という結果となった。

#### 観点別評価の分析（1学期評価評定参照 達成率50%以上の生徒の割合）

学年	関心・意欲・態度	発想・構想	技能	鑑賞
1学年	99%	91%	86%	82%
2学年	91%	82%	74%	74%
3学年	91%	89%	86%	75%

- ・技能では定期考査での失点が多い。鑑賞では定期考査の失点に加え、自分の発見や感動などが文章に表せないことや課題の未提出も達成率の低さに繋がった。特に2年生は昨年度と比べ板書等はよく書けたがレポート等の未提出者が増加した。

### ②課題

#### 生徒による授業評価の分析より

- ・制作中心となり、生徒同士の話し合いや意見交流の時間が少なくなってしまう。
- ・振り返りのワークシートを題材の要所ごとに書くようにした。しかし、回数が減ってしまった。

#### 観点別評価の分析より

- ・定期考査では、美術用語の意味を自分の言葉で説明する問題の正答が少なかった。
- ・鑑賞して感じた発見や感動を言葉で表現することが苦手な生徒がいること。
- ・全学年の中でも、特に2年生の提出物未提出者が増えている。

### ③具体的な改善策

#### 【「言語活動の充実」のために】

- 生徒の意見交流・発表を多く行うために、ICT 機器やメモ、付箋等を使って手軽に短時間でできるようにする。

#### 【「定期考査の点数向上」、「鑑賞の能力の向上」、「課題提出率の向上」のために】

- 普段の授業から、生徒自身の言葉で説明・発表させる機会を多く取り入れる。
- 西洋・日本美術史の流れに沿った鑑賞を多く取り入れ、感動や発見を自分の言葉で伝えることができる力を伸ばす。
- 提出物を確実に回収するため、授業で取り組んだプリントはその時間内で全員回収する。また、生徒が自分の課題を把握し次へと挑戦できるように評価の説明を明確にする。

